

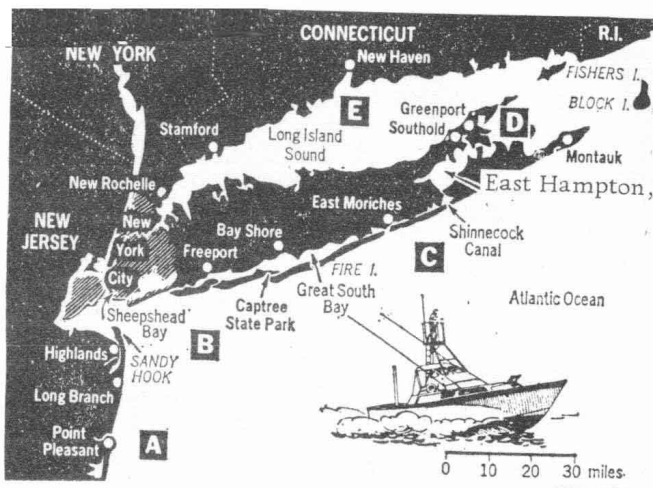
私自身のアメリカ

池田満寿夫 ● 朝日新聞社



池田満寿夫

私自身のアメリカ





## プロローグ

あるアメリカ人（以下略して単にアメリカ人とする）——なぜ、アメリカニ来タノデスカ？

著者——そういう質問はすでに何百回も聞きました。

アメリカ人——スルト、コノ質問ハアナタヲ不愉快ニシマスカ？

著者——いや、そういうわけではありません。なぜみんな同じ質問をするのか、不思議に思うだけです。

アメリカ人——デハ、アナタハ、自分ガ日本ニイタトキ、アメリカ人トカ他ノ外国人ニ、ソウシタ質問ハシタコトガナイノデスネ。

著者——そう言われれば、困りますネ。やはり一度はするでしょうネ。

アメリカ人——アナタニトッテ一度デモ、相手ニトッテハ、何百回目カノ同ジ質問ニナリマス。

著者——いや、わかりましたよ。

アメリカ人——デハ答エテ下サイ。なぜ、アメリカニ来タカラ。

著者——つまり、来たいから来たので……、なんと答えたらいいか、むずかしいです。

アメリカ人——ツマリ、特別ナ理由ハナカッタ、ト言ウノデスカ？

著者——いや、そういうわけでもありませんネ。なんらかの理由はあったでしょう。

アメリカ人——憶イ出シテ下サイ。

著者——どうしても答える必要がありますか？

アメリカ人——ソノ方ガ望マシイケド、憶イ出セナイナラヤムヲ得マセン。デハ、アメリカハ好き

デスカ？

著者——それも何百回も……

アメリカ人——聞カレタ、トイウワケデスネ。ソシテ、コレモ憶イ出セナイ。ソウデスカ？

著者——いや、なんと答えたら喜ばれるか、考えていたところなんです。

アメリカ人——ハハハ、アナタモ、ズイブン、ズルクナリマシタネ。

著者——もちろん、好きですよ。嫌いなところにいるはずはない。だけど、好きです、だけでは

少々単純すぎる気がして、もっとどうまい表現がないかを探していましたのです。

アメリカ人——イヤ、イヤ、好キダケデ充分デス。デハ、ドコガ好キナンデシヨウ？

著者——場所ですか？

アメリカ人——場所デハナク、性格ノ方デス。

著者——アメリカ人は親切で、お人善しで……

アメリカ人——ズイブン、ステレオタイプノ答エ方デスネ。モット、アナタ自身ノ感じタアメリカ、ガアルハズデス。

著者——え？　そうですとも。しかしひと口では表現出来ませんよ。

アメリカ人——今アナタハ、本ヲ書イテイルト噂サレテイマサガ、本当デスカ？

著者——へへへ、よく知っていますネ。書いています。朝日新聞社の出版局から刊行される予定です。

アメリカ人——ナニツイテ、書イテイルンデス？　芸術論デスカ？

著者——アメリカについて書いています。もちろん自分は芸術家アーティストだから、芸術のことも出てきますが、おもに日常的な視点から自分の経験を通して見たアメリカを書いていきます。

アメリカ人——芸術家デアルアナタガ、なぜ、ソナコトヲ書クノデス？　アナタデナケレバナラナイ理由ハ、ドコニアルンデスカ？

著者——そうつっこまれると困りますネ。もちろん、ぼくでなくても、アメリカを書いた本はすでに何百冊もあります。たまたま、「朝日ジャーナル」という日本の週刊誌に連載をたのまれたのがきっかけで、その連載をもとにして、新たに書き下ろしたものを加えて出版するわけでした……

アメリカ人——ワカリマシタ。シカシ芸術家デアルアナタガ、なぜ文章ヲ書クカトイウ答エニハナッテイマセン。なぜデス？

著者——頼まれたから書いたので……

アメリカ人——なぜ、アナタニトクニ頼ンダノデスカ？

著者——まあ画家にしては、わりあい文章がうまいからでしょうか……

アメリカ人——ソウイウフウニ自分デ考エテイルンデスカ？ 人ガソウ言ウンデスカ？

著者——まあ自分でも文章を書くのは好きでして、頼まれればだいたい喜んでいつも書きますがネ。

アメリカ人——頼マレナケレバ書カナイ、トイウコトデスカ？

著者——えーと、頼まれないで書いたことはありませんが……

アメリカ人——頼マレレバ、ナンデモスルトイウ意味デスカ？

著者——いや、そんなことはありません。文章に限っても、書かない場合だってあります。

アメリカ人——ソウデシヨウ、安心シマシタ。トコロデ、アメリカノ何ニツイテ書イタノカ、モウ

少シ具体的ニ話シテクレマセンカ。

著者——それは本を読んでくれればわかることで、前にも言ったように、身辺的な経験をもとにして……

アメリカ人——ツマリ、芸術家ノ眼ヲ通シタ、独自ナ角度カラ、独自ナ感覚ヲモトニシ、独自ナアメリカ文明論ヲ、独自ナ文体デ書イタ、トオツシャルノデスネ。

著者——まあそういうことでして、間違っているとしても、ぼくは素人ですから……  
アメリカ人——許サレル、トイウコトデスカ。

著者——いや、そういうわけではなく、やはり責任は自分にあります。ただ、たとえ間違いやカン違いや誤解があっても、それをそのまま書くことが、つまりそれ自体が一種の比喩になっていれば申し分ないと考えているんですが……。すなわち外国に来ていいるということは、誤解から出発して、本質にやっとたどりつくわけでして、そうした過程を全部さらけ出すことによつて、つまり自分という一人の人間を通した、自分自身をも含めた文明論にでもなってくれたら、これまたありがたいと考えているんですが、どこまで成功するか、本になってみるまでは、わかりません。

アメリカ人——ナンダカ、ヨクワカリマセンガ、要スルニ誤解的アメリカ論トイウコトデスネ。

著者——いや、そう誤解されると、これもちょっと困るんでして、ぼくの言おうとすることは、そうではなく、たとえ誤解から出発しても、やがてなんらかの真実的な部分を、いつのまにか発見しているのではないか、ということ、全部誤解であると言っているわけではないのです。

アメリカ人——マスマス、ワカラナイ。残念ナガラ日本語ガ読メナイノデ、アナタノ本モ読メマセ

ンガ……

著者——それはありがたい……いや、非常に残念なことです。いつか翻訳してお聞かせしましょう。

アメリカ人——アリガトウゴザイマス。モウ少シ質問ガアリマスガ、ツツケテイイデスカ？

著者——どうぞ。でも、あまりむずかしい質問でないようにして下さい。

アメリカ人——アナタノ奥サンハアメリカ人デスネ？



著者——顔は日本人に似ていますが、アメリカ生れのアメリカ人です。もともと父親は中国人ですが。

アメリカ人——ナルホド。ドウシテ、アメリカ人ノ女性ト一緒ニナッタノデスカ？

著者——えーと、つまり××だからです。

アメリカ人——エ？ ヨク聞エマセンデシタガ、モウ一度言ッテ下サイ。

著者——つまりアメリカ人だったから好きになったのではなく、好きになった女性がアメリカ人だったのです。

アメリカ人——ナルホド。モットモナ話デスカ、二人ノアイダノ会話ハ、何語デスカ？

著者——英語です。

アメリカ人——英語デナク米語ト言ッテ下サイ。トコロデ、ナゼ日本語デナク米語ナンデス？

著者——そのことも本文に書いてあります。

アメリカ人——ソレハ、ソレハ。デハ、今ノオ住居ノ、イースト・ハンプトン、ニ住ンデイルノハ、

何カ特別ナ理由ガアルノデスカ？

著者——それも本文に書いてあります。

アメリカ人——ナルホド。デハ、イマ注目サレテイル、ウォーターゲート事件ニツイテ、ドウ考エ

マスカ？

著者——それも本文に書いてあります。

アメリカ人——ソレデハ、アナタノ、ボルノグラフィ、ニツイテノ考エヲ聞カセテ下サイ。

著者——申しわけありませんが、それも本文に書いてあります。

アメリカ人——ワカリマシタ、ワカリマシタ。ソレデハ、本文ニ書イテナイ、何カ重要ナコトガア  
ッタラ、言ッテ下サイ。

著者——そのためには、もう一冊本を書かなくてはならないでしょう。

アメリカ人——ソレモ日本語デスネ？

著者——もちろんそうです。

アメリカ人——デハ最後ニ、モウヒト言。アナタノ本ノ成功ヲイノリマス。

著者——あなたのご健康をいのります。

1973・6・8

The Springs, East Hampton, New York



● 私自身のアメリカ ●  
目次

ブローグ 1

# 1

アメリカ人との出会い 17

イースト・ハンプトンの人々 31

ひげと法事 45

毛虫からはじまる話 59

運転免許 73

自動車とアポロ 87

わが食物誌 100

弁護士と精神分析医 117

異国に住むということ 130

# 2

バース・カード 145

じす・かんとりー 162

じすいず・でもくらしい 177

家庭の事情 189

水門事件余滴 204

# 3

芸術家の生活 219

ニューヨークの日本人画家たち 233

ヤスコ・クニヨシ狂奏曲 246

ひとりの版画家として 263

ポルノと美学の間 277

あとがき 293

● 装本 勝井三雄 ●

● 装画 池田満寿夫 ●

私自身のアメリカ



—  
莉蘭に